

令和3年12月 1日 (水)



11月26日(金)のトップページで次回を12月2日(木)とお知らせしためざみっこ給食の献立を立てるための学習会は、本日が2回目でした。

5・6年の子どもたちは、栄養教諭が準備した主食・主菜・副菜・汁物・その他を記入できる献立シートに、ペアで立てた献立を書き込んでいました。そして、献立を写真に撮ってロイロノートに送り、発表の準備をしていました。

最後に4つのペアが電子黒板の前で発表しました。どのペアも、栄養教諭から学んだ工夫やアドバイスを生かして、冬の季節に合う旬の食材や、食欲がわくように色とりどりの食材を使い、栄養や味のバランスを考えた献立を立てることができていました。

栄養教諭からは、前時にアドバイスをしてより栄養や味のバランスが良くなった点等をほめてもらいました。どの献立が採用になってもおかしくないものばかりなので、町の学校給食共同調理場に一度持ち帰り、職員にも見てもらってから「ベストオブ手ノ子小」を決定することになりました。

令和3年12月 3日（金）



今週は11月29日（月）から「いのちの学習週間」でした。2回目のQ-Uアンケートやいじめアンケートの結果をもとに、お話タイムを設け、担任が子どもたち一人一人と面談しました。

また、12月2日（木）には、飯豊町の人権擁護委員の3名の方にご来校いただき、5・6年生が人権擁護についての講話をいただきました。講師の先生からは、人権について、「自分を大事にすれば、人を大切にする心が育つということ」と分かりやすく教えてくださいました。そして、女

子スキージャンプで活躍する高梨沙羅選手が、ブランクの時、SNSで誹謗中傷を受けた時にも、「自分を信じろ」と自分に言い聞かせ、無心になってトレーニングに励んだことなどを話してくださいました。

本日の学習参観後の全体会では、いじめアンケートのご協力について保護者の皆様に感謝するとともに、

「友達とのトラブルについては、大人が適切に関わりながら、自分たちで解決する力を身に付けさせたいと考えています。そのためには、子どもの困り感を受け入れつつも、双方（子ども同士、子どもと学校）の情報から適切に状況を把握する必要があります。報告・連絡・相談の、特に相談は学校にいつでも遠慮なくいただきながら密にし合い、子どもたちが将来の人間関係を学ぶ場を共につくっていきましょう。」

と引き続きの連携・協働を求めました。



令和3年12月 8日(水)



本日は、「高峰そば工房」の講師の先生1名、ふるさと学園の皆さん8名、西部地区公民館の職員の皆さん3名をお招きし、放課後活動としてそば打ち体験を行いました。

はじめに「高峰そば工房」の講師の先生からそばの伸ばし方の手本を見せていただき、班ごとに全員が伸ばし方に取り組みました。子どもたちは幼稚園の行事や公民館の行事でそば打ちの経験があり、比較的手慣れた手つきで作業に取り組んでいました。

伸ばし方が終わると今度は包丁を使ってのそば切り体験。これも講師の先生に切り方のお手本を見せていただいてから作業に取り組みました。班ごとにふるさと学園の方からアドバイスをいただきながら丁寧に取り組み、これまたちょうどいい具合に切ることができていました。調子が出てくるともう一回やりたいという子がどんどん出てきて、楽しい雰囲気の中で活動を進めることができました。

最後に、あらかじめ「高峰そば工房」で作っていただいていたものと自分たちが切ったそばを合わせてお土産にいただいて帰りました。地域の方々にやさしく教えていただいたこともあり、「楽しかった!」という感想がたくさん聞かれました。

令和3年12月17日(金)



本日、学校後援会長様にご来校いただき、全校生の前で室内用一輪車6台とクロスカントリースキー3台をご寄贈いただきました。

学校後援会長様には、これまでも、町の人権擁護委員として、また、最近では、「高峰そば工房」の講師の先生としてお世話になってきました。

学校後援会長様から、代表児童への一輪車の授与の後、以下のような温かいお言葉を頂戴しました。

「学校後援会は、地域の応援組織です。これまでも、入学式にヘルメットを贈ったり外遊び用の一輪車を贈ったりして、みなさんが安心して通学し、一生懸命運動等ができるように応援してきました。ここにある一輪車やクロカントリースキーは、地域の方々から頂いたお金で買ったものです。大切に使いつつも、壊れるくらいたくさん使って元気に育ててほしいです。そして、クロスカントリーの大会で良い記録ができるように頑張ってください。」

今年度から2年生も加わり、クロスカントリースキーの放課後練習が2月13日(日)の町スキー大会まで13回予定されております。地域の皆様のご支援に感謝しながら、大いに活用させていただきたいと思っております。



令和3年12月21日（火）



本日、小中連携の取組として、飯豊中学校の生徒会総会にご招待いただき、本校の6年生が第一小学校の6年生と一緒に参観してきました。

はじめに、新執行部や新専門委員長が、校長先生から直接激励の言葉を頂きながら認証書を受け取る姿を見守りました。

討議の際には、大きな返事をして発言席に出る先輩方の姿を見守りました。発言に対する役員の答弁後、自分もこれから頑張ることを伝えて発言を終える姿が多く見られました。

参観後の振り返りには、

「司会をしていた方が次々と進めていて聞きやすかったし、発表していた方々もはきはきしていかっこよかった。」

「人数が多い中で意見を述べていることがすごいなと思った。」

「現委員長や次の委員長が堂々としていてすごいと思った。」

「議長や副議長の人がスムーズに話し合いをしていてすごいと思った。」

「全員が真面目でたくさん意見などを出していて、中学校に行ったら僕も意見を出したい。」

「私はあまり自分の意見を言わないので、これからと中学校では、たくさん意見を出したい。」

といった感想が書いてありました。先輩方一人一人が、自分事としてよりよい学校をつくらうとする意識を感じ取ることができたようです。

令和3年12月23日(木)



飯豊町農林振興課から、町内の4年生から6年生の子どもたち向けに、地元産の木材を使用した「おうちで木育キット」を頂きました。

山形県では、平成19年より「やまがた緑環境税」を導入し、県民みんなで支える新しい森づくりに取り組んでいるそうです。キットの「木製コーナーラック」をおうちの方と一緒に作ることで、置賜地域で育ち、伐採され、製材されたスギの木にふれあい、木の良さを感じてほしいという願いがあるようです。冬休み中の家族団らんに、是非親子で挑戦してほしいと思います。

今日の間休みに、学校用に頂いたサンプルを、希望した子どもたちが技術員と一緒に作っていました。学校で活用することで、2・3年生の子どもたちにも、置賜地域で育ったスギの手触りや香りを感じとってほしいと思います。



令和3年12月24日（金）



2学期88日間の学校生活を終え、本日24日（金）に終業式を迎えました。2学期は1番長い学期だけに、夏・秋・冬と3つの季節の移り変わりの中、子どもたちは様々な活動を体験してきました。1学期には、「無理」「できない」という後ろ向きな言葉が漏れてきて、表情に硬さが見られた子どもたちも、2学期を終える今となっては、前向きで明るい声と表情に変わっています。

少人数である強みを最大限に生かし、コロナ禍においても積極的に校外へと学びのフィールドを広げてきました。また、少人数である弱みを最小限にするために、全校での活動や地域の方々と触れ合う活動の機会を増やしてきました。テレビやラジオ、新聞や広報紙、動画サイト等様々なメディアで子どもたちの活動の様子が取り上げられる度に、保護者の皆様はもちろんのこと、地域の皆様にも頑張りを認め励ます温かい言葉を頂戴してきました。おかげさまで、子どもたちは自己肯定感を高め、自分のあめてに向かって粘り強く取り組むようになりました。改めて感謝申し上げます。

終業式の校長の話では、学校の合言葉「あ・い・う・え・お」の「あ（あきらめない）」に焦点を当て、2学期の頑張りを振り返るとともに、冬休みのくらしについて、アンデシュ・ハンセン著「スマホ脳」を取り上げ、メディアコントロールと運動習慣の重要性について話しました。